

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773801341		
法人名	医療法人祐青会		
事業所名	グループホーム くすのき苑1階(杉)		
所在地	大阪府羽曳野市古市5丁目5番13号		
自己評価作成日	平成31年2月4日	評価結果市町村受理日	令和元年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2773801341-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成31年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・タイムスケジュールや週間予定を決めず、それぞれが自由に過ごしながら、想いや希望に沿った生活ができるよう努めている。 ・地域の一員として生活できるよう、日々の関わりを大切にしている。地域の行事に参加したり、ボランティアの受け入れや市民との交流を積極的に行っている。 ・働きやすい環境であるよう、スタッフ同士が自由に発言できる環境づくりに努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当該事業所は、町内会に加入し地域の美化活動や防災訓練に職員が参加して事業所の認知度の向上に努めると共に、地域との良好な関係作りに努めています。また地域の花見祭やだんじりに等の行事に参加したり、事業所に近隣の保育園の来訪がありプレゼントをもらったり小学生を招いて昔の遊びを楽しんでもらい交流を深める他、傾聴や車椅子の整備等のボランティアの来訪があり、地域との関わりを積極的に進めることで協力関係の構築や利用者へのサービスの向上に繋がっています。週1回協力医の往診や週2回訪問看護師による健康管理を受け医療面の体制も整えられ、職員は会議や日々の中で意見交換を行い協力しながら利用者一人ひとりが思い思いに過ごせるよう支援に取り組んでいます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念に基づいた宣言を毎日の朝礼で唱和しており、一人ひとり実践につなげられるように努めている。	法人の理念を基に職員のケアの方向性を示し作成した「宣言」を理念と共に玄関やフロア等に掲示し、毎朝唱和して意識付けを行っています。毎月全体会議で職員主導で「宣言」を実践していくにはどうすべきかを考えて日々の支援に取り組み、必要に応じて管理者が軌道修正を行うことで理念の実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会の行事に参加したり、近隣の保育園、小学校と交流している。	町内会に加入し、花見やだんじり祭り等の行事に利用者と参加しています。事業所に年1回保育園児の来訪がありプレゼントをもらったり、小学生を招いて昔の遊びを楽しんでもらう等の交流しています。定期的に併設施設に音楽や手品のボランティアの訪問があり一緒に楽しみ、事業所にも傾聴や草刈り等のボランティアの来訪もある等、積極的に地域の方々と交流して利用者へのサービスの向上に繋げています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会と「災害時相互支援協定」を結んでいる。また、キャラバンメイトとしての活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、会議を開催し、活動内容を報告している。また、参加者から出た意見を反映できるよう検討し、実践につなげている。	会議は2か月に1回家族や区長、民生委員、他施設職員、市職員等の参加の下開催し、活動や研修の報告、行事の連絡、事故報告等を行い意見交換をしています。事故報告の際には対応方法も伝えると共に、他事業所の事例や対応方法を聞く等、会議を支援や運営に活かすように努めています。また会議の内容は家族会で周知しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも参加して頂いている。必要時にはいつでも連絡ができる関係を築いている。	運営上の手続きや報告、相談等で行政の窓口へ訪問し、電話でも不明点等を確認しています。市から委託を受けて中学校で介護の授業を実施したり、グループホーム部会に参加して行政の職員と意見交換しています。また、行政から研修等の案内が届き可能なものには参加する等、行政との協力関係の構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人研修、または苑内でも研修を行っており、1人ひとり意識してケアに取り組んでいる。身体拘束は実施されていない。	法人や事業所で身体拘束に関する研修を実施し職員は知識を身に付けると共に、セルフチェックも活用し職員自身で振り返っています。言葉による行動の制止が見られた場合その都度主任やリーダーが注意しています。安全上フロア入口は施錠していますが、外出希望の利用者には職員が寄り添いできる時には外出し気分転換を図り閉塞感の無い暮らしへの支援に努めています。	

グループホーム くすのき苑1階(杉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内でも研修を行い、学ぶ機会を設けている。1人ひとり意識し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、苑内の研修で学ぶ機会を設けている。また、実際に使用されている利用者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に確認をとっている。改定等がある場合事前に家族へ説明し納得して頂いた上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から、意見・苦情などがあった場合は、朝礼や会議、日々の申し送り等で共有している。また、運営推進会議の議題としても挙げ話し合う機会を設けている。	利用者の意見や要望は日々の関わり合いの中で聞くように努め、希望する食事を提供したり、個別で買い物や外食に出掛ける等、要望を受けて日々の支援に反映しています。家族からの意見や要望は年2回実施する家族会や日々の面会時等に聞きくようにし、外出先の情報を得て実際に出かけたり、料理のアドバイスをもらう等、意見を要望を運営やサービスに活かして反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はフロア会議、全体会議に参加し、会議の際スタッフから出た意見について法人会議にも挙げ、法人幹部へ提出するようにしている。	毎月実施するフロア会議や全体会議等で職員から意見や提案を聞いています。職員の提案から週3回は手作りで朝食を提供するようしたり業務の役割分担を変更して業務改善に繋げる等、意見や提案を運営に反映しています。また、年2回の定時の個別面談や日々の中でも職員に声をかけて面談を実施して意見や提案等を聞く機会を持っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	非常勤のスタッフについては個人の働ける条件に合う勤務ができるようにしている。また定期的に個人面談を行い、意見等を聞き整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修はスタッフ全員が受講できるようにしている。また、研修を受けるスタッフの力量に合わせた外部研修に参加している。		

グループホーム くすのき苑1階(杉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと定期的集まり、勉強会やグループディスカッションを行い、得た情報を苑内で活かされるように取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面接時から関りを多く持ち、利用者の情報を多く集め、早期に信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも面接時に関りを多く持ち、不安など問題点を早期に発見できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて、他のサービスが適切であると判断した場合、利用者と家族へ説明を行い紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみや食器洗い等、利用者の力量を把握し、スタッフとその作業を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでも家族に相談し、共に問題を解決できる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に関係性を確認のうえ、友人や知人の方にも面会に来て頂いている。昔から通っていた馴染みの美容院等にも通って頂けるよう支援している。	友人や知人、職場の同僚等の来訪の際には居室やリビングへ案内し椅子やお茶を出してゆっくり過ごしてもらえるよう配慮し、職員が同席し会話を取り持つこともあります。職員と馴染みの美容室や墓参りへ外出支援をしたり、家族と一緒に自宅や法事等に出掛ける際には事前準備を支援しています。年賀状の作成の支援をする等、馴染みの関係が継続できるよう支援をしています。	

グループホーム くすのき苑1階(杉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者同士関りが持てるようスタッフが見守り支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、相談があればいつでも対応できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去にどのような生活をされておられたのかを把握し、できるだけ本人の希望に添えられるように努めている。また、意思表示が困難な方には何を望んでいるのかをスタッフ同士で話し合い検討している。	入居時に自宅や施設等へ訪問し利用者や家族から面談で家族構成や生活歴、思いや意向等を聞いたり、以前の施設等からも情報を得ています。入居後は日々の関わりの中で利用者の思いや希望を聞き、意思疎通が困難な場合も表情から汲み取ったり、家族にも相談して職員間で本人本位に検討して思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでにどのような生活をされてきたのかを家族に聞き、情報を集め、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々をどのように過ごしているか、また状態の変化など観察し、把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状のケアについてスタッフ同士や家族と話し合い、本人と家族が納得できるプランを作成している。	アセスメントを基に作成した介護計画は3か月毎の見直しを基本としています。見直しの際はモニタリングを行い再アセスメントを実施してサービス担当者会議を開き、事前に聞いた家族や医師、看護師等の意見を計画に反映しています。利用者の状態に変化があれば随時見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録をもとに、フロア会議で話し合いを行っている。スタッフ同士のコミュニケーションを取り、情報を共有できるよう努めている。		

グループホーム くすのき苑1階(杉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスだけではなく、本人や家族の希望があれば可能な限り支援できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園や小学校が来苑し、交流している。また町会のイベントにも参加して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回主治医による往診がある。また必要に応じて専門医へ受診ができるように連携を取っている。	入居時にこれまでのかかりつけ医の継続か協力医への変更を選択してもらい、現在は全員が協力医の週1回の往診を受け、緊急時は24時間対応で連絡が必要な指示等もらっています。また訪問看護師による健康管理を週2回受けています。専門医へは職員の対応で受診し書面や口頭で家族と情報を共有しています。また、利用者の必要に応じて眼科や歯科の往診を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1回訪問看護師による健康チェックを受けている。状態の変化などその都度相談し、必要であれば受診できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態の悪化を早期発見し、主治医に報告、相談している。また、家族への報告や話し合いの場を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	会議の際に緊急時の対応について研修を行っている。また、重度化した場合、今後の支援について医者や家族と相談できるように取り組んでいる。	入居時に指針を基に利用者が重度化した際の事業所として対応可能なことを家族へ説明し希望を聞いています。利用者が重度化した際には再度家族へ意向を確認し、利用者の状況の変化を細やかに家族へ連絡しながら事業所に対応出来る限りの支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について研修を行っており、スタッフ全員が実践できるよう努めている。		

グループホーム くすのき苑1階(杉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っており、また災害時についての研修も行っている。スタッフ全員が安全な場所を把握し、円滑かつ安全に行えるように努めている。	併設の事業所と合同で年2回それぞれ昼夜を想定して内1回は消防署立ち会いの下利用者も参加して通報や避難誘導、初期消火等の訓練を実施しています。地域の防災訓練に職員が参加し避難用品の扱い方の指導を受け、地域での災害発生時には事業所が避難場所となり協力体制が築けるよう努めています。また、水や缶詰等の食料、コンロやボンベ、懐中電灯、介護用品等も備蓄しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人ひとり言葉遣いや声のトーンに意識し、利用者一人ひとりを尊重するよう努めている。	年1回接遇に関する研修を実施し職員は知識を身に付けています。利用者との関係性を構築しながら声の大きさにも配慮しやわらかく分かりやすい言葉かけを心掛け、不適切な対応が見られた際にはその都度注意しています。入浴や排泄介助時は利用者の希望に応じて出来るだけ同性介助を行い、羞恥心に配慮した支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な利用者には日々の支援の中で何を望んでいるのかをスタッフ同士で話し合いを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日を自由に過ごして頂いている。一人ひとりのペースが違うため、合わせられるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は、好みの洋服を選んできて頂いている。女性の利用者の場合使っていた化粧品等も使用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握し、嗜好品を提供している。また、食器洗いが出来る利用者にはスタッフが側に付き一緒に行うようにしている。	業者から食事が届き、週3回の朝食と週1回の昼食は職員が献立を決めて事業所で作り、利用者も盛り付けや等の出来る事に携わっています。利用者と一緒に材料を買いに行くこともあり、職員も一緒にテーブルを囲んで同じ物を食べています。梅干しや野菜を作ったり、ホットケーキやゼリー等の手作りおやつを提供や外食に出掛ける等食事を楽しめるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分量や食事量を把握するため毎食記録している。また、水分などの嚥下が困難な方にはとろみ剤を付けて飲みやすい状態にして提供している。		

グループホーム くすのき苑1階(杉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、できる方には自己にて口腔ケアを行って頂いている。介助が必要な方にはスタッフが支援している。また必要に応じて歯科往診を受診できる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、排泄パターンの把握に努めている。オムツやパットを活用して1人ひとりに合った方法で支援に努めている。座位が保てる方であれば出来るだけトイレにて排泄できるよう支援している。	座位の取れる方はトイレでの排泄を基本とし、個々に排泄記録を取りパターンを把握して利用者一人ひとり応じた声かけや案内、介助を行っています。排泄の支援を継続することで紙パンツから布の下着と薄いパッドで過ごせるようになる等、排泄状況が改善した利用者もいます。利用者個々に応じた排泄用品の種類や支援方法は日々の中で職員間で話し合い検討し、会議で決めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい方はできるだけ薬に頼らず、乳製品を摂って頂いている。またホットパックやマッサージ等行い便秘にならないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間に最低2回は入浴して頂いているが、本人の希望があれば可能な限り入浴して頂いている。シャンプーやボディソープは本人の好きな物を使って頂いている。	入浴はチェック表を記録しながら少なくとも週2回は入れるように日中の時間帯に支援し、希望があれば回数を増やすことも可能です。拒否が見られた場合は日時を変えたり声をかける職員を代える等工夫して無理なく入浴してもらっています。湯は一人ずつ交換してゆず湯や菖蒲湯をしたり、個々にボディソープを準備し、好みのシャンプー等を持ち込む利用者もおり、1人ずつゆっくり入浴してもらえるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠されている方や体調がすぐれない方がいれば居室にて静養して頂いている。夜間など居室の電気の明るさに気を付け安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診記録に日々の状態や処方薬を記入し、その都度処方箋を確認している。支援についてはチェック表を用いて漏れが無いかに注意し、最低でもスタッフ2人で確認し服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日は少人数で屋上庭園に行ったり、定期的に1階2階合同で食事会やおやつ作りをしている。		

グループホーム くすのき苑1階(杉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事にも出来る限り参加して頂いている。また、本人や家族の希望があれば日時を決めて外出して頂いている。	気候の良い時期には東屋のある広いテラスに出してお茶を飲んだり外気浴を楽しみ、また月に1~2回はドライブに出掛けています。季節に応じて初詣や桜の花見、紅葉狩り等に外出しています。水族館やショッピングモールに行き外食や買い物を楽しむ等、出来るだけ外出する機会を多く持てるよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力に合わせて所持して頂いている。また、本人が欲しいと言われたものは可能な限り購入することができ、スタッフと一緒に買いに行く事ができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば本人や家族の意向を確認し、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内は日中、夜間共に安全に移動できるよう環境を整えている。また季節に応じた飾り付けや食事を提供している。	フロアに行事の写真や利用者と職員で毎月作った貼り絵を飾りつけをして季節を感じてもらえるようにしています。机や椅子は利用者同士の関係性を考慮して配置し、温湿度計を見て利用者の体感も聞き室温を調整しています。加湿器を使用して湿度保持に努め、毎日換気や利用者も出来ることに携わりながら掃除を行い快適な共用空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには椅子だけではなくソファも置いている為、好きな場所で思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から家で使っていた家具など使い慣れた物を居室に置くことができる。	入居時に家族へ使い慣れた馴染みの物を持って来てもらうよう伝え、テレビや棚、テーブル、椅子、机、仏壇等を持ち込み、家族が配置し入居後の生活を見て変更することもあります。家族の写真や家族の作ったリース等の作品を飾っている利用者がいたり、畳や絨毯を敷き布団で休むことも可能でその人らしい居室となるよう配慮しています。毎日清掃を実施して清潔保持に努め、快適に過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフは利用者1人ひとりの能力を把握し、その人の能力に合わせて洗濯たたみやテーブル拭き等行っている。		